



大原小学校校長室



文責 千々和 道隆

平成28年12月9日

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

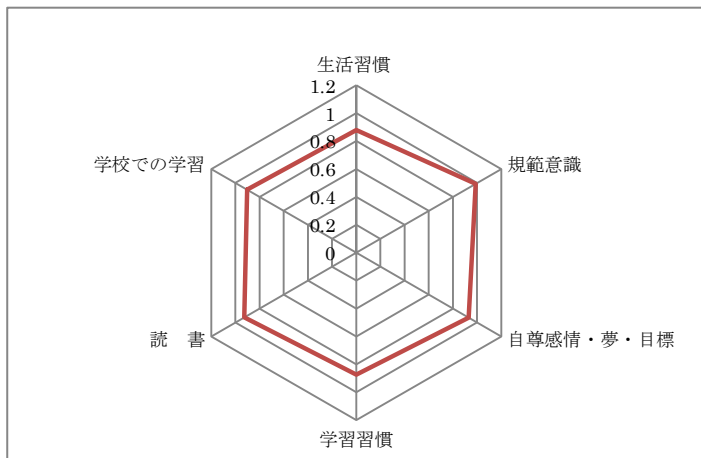
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語の知識・理解については、基礎が身に付いていた。読む力をつけることと、ローマ字を読んだり書いたりする力をつける必要がある。	下回っている
国語B	文章の内容を的確に押させ、自分の考えを明確にしながら書くことができていた。今後は目的に応じて、質問したいこと整理する力を付けることが必要である。	下回っている
算数A	計算問題では、正答率が高く、基礎的な計算力がついている。図形に関して苦手意識があり、特に立体図形の空間認識に課題がある。	下回っている
算数B	記述問題に粘り強く取り組むことにより、昨年度より正答率が上がった。数量や図形についての知識・理解に課題があり、かけ算やわり算の意味を解釈する問題は、正答率が低かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ 1日あたりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている時間が多く、2時間以上の長時間の利用の割合も多いことがわかった。本校では、スマホ・携帯電話の所持率が高いため、「携帯・スマホ電源9時OFF」の取組を行っているが引き続き保護者に啓発活動を行っていきたい。
- ・ 自尊感情が低いため、それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ これまでの取組の継続

本校は、様々な取組(天候不良の日の朝のチャレンジタイム・給食時間の補充学習・ノート見本掲示・校内漢字検定・MIMの取組・家庭学習チャレンジハンドブック活用)を行っているため、少しずつ成果として表れているものと思われる。このまま継続して取組を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく。

○ 教科の取組

算数科においては、毎年図形の領域に課題があるため、学習中に操作活動の時間を十分に確保し、図形の空間認識を高めていく。また、学力向上推進委員が中心となって少人数学習計画を立て、活用力を高めていく。総合的な学習の時間においては、年間計画を見直し、教科学習と絡めながら、探究活動を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 読書活動の充実

毎朝の読書活動や図書委員会を中心とした図書コーナーの充実、図書ボランティアの活用等々、読書活動が推進されている。読書の質を高め、言葉の知識・理解を増やしていけるように努める。

○ 家庭学習(自主学習)の充実

学校の授業以外に勉強している時間が増えてきたが、二極化しており、宿題を行うだけにとどまっている児童も多い。3年生以上の全児童に自学ノートを配布しているので、家庭学習チャレンジハンドブックを活用しながら、自分で計画して学習に取り組むことができるようになってきている。宿題の内容を見直し、自学の力を高めていくために、継続して自主学習の取り組みを推進し、保護者への啓発活動を行っていく。

○ 食生活の改善

朝ご飯を食べていない児童の割合が高く、養護教諭・栄養教諭・担任・学校等の通信を活用し、生活習慣の見直しを図っていく。